

高知県から得られた北限記録となるスベスベテナガエビ

高橋弘明

株式会社 相愛



写真1 *Macrobrachium equidens* (Dana, 1852)
スベスベテナガエビ (側面)



写真2 *Macrobrachium equidens* (Dana, 1852)
スベスベテナガエビ (背面)

種の記録

Palaemonidae テナガエビ科

Macrobrachium equidens (Dana, 1852)

スベスベテナガエビ (写真 1, 2)

標本 採集年月日: 2023年9月14日. 採集場所: 高知県土佐清水市三崎, 三崎川汽水域 (32.7882N, 132.8688E). 採集方法: タモ網. 採集数: 1 個体. 標本保管: 株式会社相愛内 (液浸)

種の特徴

体長 24.1mm. 頭胸甲長 10.3mm. 体型は他のテナガエビ属に似る. 体色は透明感のある茶褐色. 模様は全体に薄く, 濃褐色の短い破線状模様が頭胸甲に数本, 頭胸甲腹側と尾節中央部, 下部に暗褐色の点列がある. 第 2 胸脚座節, 長節の先端部以外と掌節は鮮やかな橙色, 指節は濃い青色を呈する. 額角は比較的短く, 触角鱗の先端と同程度で上に向かってやや湾曲する. 額角歯式 3+8/6. 第 2 胸脚は左右同型で腕節は長節の 1.51 倍.

備考

分類は豊田・関 (2014) にしたがった. 本種は両側回避性のテナガエビ類であり, 国外ではインド・西太平洋に広く分布し, 国内では鹿児島県薩摩半島から琉球列島にかけて分布する (豊田・関, 2014; 2019). これまで, 高知県はもとより四国からの記録はなく, 本報は分布の北限記録となる. 汽水域に生息し, 主にマンガローブ等で見られるが, 沖縄県では埋立てや道路

工事, 護岸整備, 河川改修等に伴って減少しており, 県版レッドデータブックの準絶滅危惧種に選定されている (沖縄県環境部自然保護課編, 2017). 本種は体長 70mm に達するとされていることから (豊田・関, 2014; 2019), 今回採集された個体は未成熟個体である可能性が高い. 三崎川では, 汽水域のヨシの根が水中に張り出した岸際で採集された. 採集個体数は 1 個体のみであり, 生息状況の詳細については不明であることから, 今後も出現状況の動向については注視していく必要がある.

引用文献

- 沖縄県環境部自然保護課編. 2017. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第 3 版 (動物編) - レッドデータおきなわ -. 沖縄県環境部自然保護課, 那覇市. 712pp.
- 豊田幸詞・関慎太郎. 2014. 日本の淡水性エビ・カニ. 日本産淡水性・汽水性甲殻類 102 種. 誠文堂新光社, 東京. 255pp.
- 豊田幸詞・関慎太郎. 2019. 日本産淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑. 緑書房, 東京. 339pp.

(2023年9月16日受付, 2023年9月17日公開)

連絡先: 高橋弘明 (e-mail: h.takahashi@soai-net.co.jp)

(Hiroaki Takahashi. 2023. A northernmost record of *Macrobrachium equidens* (Palaemonidae) from Misaki River in Kochi Prefecture. NS Fieldnote, 23015)